

議 事 要 旨

日時	令和6年10月1日(火) 19時00分～20時20分	場所	今福小学校 講堂
出席者	今福地域住民 約40名		
	城東区役所：吉村区長、田村子育て教育担当課長、高橋子育て教育担当課長代理		
	教育委員会事務局：山東学校適正配置担当課長、岡永学校適正配置担当課長代理、友永担当係長、坂本指導主事		
議題	今福小学校・放出小学校 学校再編整備計画について		
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・今福小学校・放出小学校 学校再編整備計画 ・学校配置の適正化と学校再編整備計画について～今福小学校・放出小学校～ ・大阪市立学校活性化条例(抜粋)・大阪市立小学校の適正規模の確保に関する規則 ・今福小学校・放出小学校 再編整備計画にかかるご意見シート 		

内 容

・来年から1年生として今福小学校に通常通り入学することは可能なのか。入学して途中で統合となった場合、放出小学校以外の小学校への通学を選択するということは可能なのか



区： 統合予定である令和11年4月になるまでは、今福小学校への入学は引き続き可能である。また、統合で11年4月になった場合に放出小学校以外の小学校への通学は可能かという点であるが、学校選択制については、途中の学年で別の学校を選択するという規定は現時点ではなく、校区である放出小学校に通っていただくことになる。小学校なので遠方の学校への希望はないかと思うが、隣接であっても、その時点での小学校の空き状況、受入れが可能な児童数も確認する必要があるため、現状、可能性について言及できないが、そういった要望をいただいた際には、状況に応じて検討していく。

・途中で学校が変わることができないという話であるが、そうであれば今福小学校に入学しないことになり、児童がどんどん減っていく。今でも校区の3分の1の児童は今福小学校ではなく鯉江東小学校に行っている状況。もし今福小学校がなくなるとなれば、初めから全員が鯉江東小学校に行けばいいのではなくなる。放出小学校を統合までに改築して収容できるようにするとのことだが、鯉江東小学校を増築すべきなのではないか。現状の保護者の動向や各校のバランスを考えていただくのが行政の仕事ではないか。また、我々は地域のみなさんの2,000人以上の反対の署名を集め、区役所に提出している。こちらから「統合をお願いします」ということを協議の結果言っているわけではなく、行政主導で話を進めている。途中で学校も変われないとなれば、今福小学校に入学しませんということになりかねないわけで、これでは納得いかない、反対、計画をストップしてください、ということになる。保護者や地域の意見をしっかりと反映してもらわないといけない。さきほどの保護者の意見もしっかりと反映していただきたい。

・中学生と小学1年生の子どもがいるが、中学生でも川を越えて放出中学校に通うのが毎日大変といっているのに、小1でランドセルも重たい状況の中、川を越えて毎日学校に通うのはかなりつらいと思う。通学に親が付き添わないといけないとなると仕事をしている保護者もつらいので、通学については、特に低学年にとっては無謀な距離だと思う。昔と比べて通学の際の荷物の量も重さも増えており、そういった点も配慮していただきたい。



区：鯉江東小学校の方が近い地域は鯉江東小学校に通えるようにしてもらいたいというご意見については、1年生の入学の段階で学校選択制により希望いただくことになろうと思う。

教育委員会事務局：教育委員会事務局としても、円滑な再編整備に向けて予算が配分されるインセンティブ制度などを活用し、区役所とも連携しながら、予定では令和10年度末で新小学校に統合となるが、それまでの間も、今福小学校が充実した学校運営を行えるように努める。そして、できたら今福小学

校を選んで通っていただきたいというのが我々の思いである。

また、通学するのが大変だとの意見であるが、校区の変更により通学距離が延びたことによる負担の軽減については、他区の例ではあるが、先ほどのインセンティブ制度による予算を活用し、学校の教室や廊下に児童の荷物を置けるようなロッカーを整備し、重い荷物を持たずに通学できるようにし負担軽減を図っている区もあるので、先ほどの説明にもあったが、今後の適正配置検討会議においても意見を聞かせていただき、可能な限り再編に関する負担が軽減されるよう取り組んでまいりたい。

区長：さまざまなご意見、ご質問をいただき感謝する。通学や新しい学校への入学など、みなさんのご懸念は我々もしっかりと受け止めている。個々の懸念や課題がある中で、地域のみなさんもいろいろな不安を抱えているだろうと思う。そういった中で、全体として、地域としても、なかなか賛成しがたい、反対だという署名も提出されたということで、個別の各課題に対しての不安が完全に払拭されないなかで、全体としての小学校の統廃合自体に懸念があるとの意見であると受け止めており、その点に関しては区役所としても認識しており、申し訳ないと感じている。

我々が今回の学校再編、今福小学校と放出小学校との統廃合を検討していく必要があると考えている一番大きな理由、前提として、子どもたちの学校教育の環境、少人数になるとクラス替えができないとか人間関係の面からも課題があるとか、学力も含めてであるが、いずれにしても、我々が最優先に考えているのは、子どもたちの教育環境を充実させたい。今後も少子高齢化が進んでいく中、子どもの数も増えず、小規模校になっていくことによるデメリットが大きくなっていくといった懸念があるので、その解決方法として統廃合を打ち出したということである。それをご理解いただいた上で、とはいっても通学の問題等、各論については語弊があるかもしれないが、個別の課題については、これから我々も解決に向けてしっかりと取り組んでまいりたい。ただ、各論にこだわっているあまり、結果的に子どもたちの教育環境が確保できないというのは我々が懸念するところである。子どもたちの教育環境の充実という大きな目的を踏まえたうえで、そこを了承いただければ、各論に関してはしっかりと、地域のみなさんも含めた学校適正配置検討会議で一緒に検討してまいりたいと考えているので、まずは、子どもたちの教育環境をしっかりと確保する、より良いものにしていくという大きな目的のために進めさせていただきたいというのが我々の立場である。みなさんの懸念に関しての受け止めは必ず行い、検討も進めていくので、本日はその点をご理解いただきたい。個々の不安な点があればどんどんおっしゃっていただきたい。いただいた点についてはこれからもしっかりと検討させていただくことを約束させていただくのでよろしくお願いします。

・別の校区に居住しており、他の学校にも見学に行った際、特に特別支援学級について、人数が多くて目が行き届いていないといったように感じられた。困りごとを抱えている保護者への対応も、先生方と話しても今福小学校の方が目が行き届いていると感じているので、子どもを今福小学校に通学させている。子どもたちの学習環境の話もあったが、学習参観の際でも、低学年では後ろの方の席だと横の児童としゃべったりなど、児童の人数が多ければ多いほど先生の目が行き届かないと思うので、そういった面でも小規模校、少人数のメリットは大変多いと思うので、校区の見直しをしていただいて人数調整をしてももらえないのか。

↓

区：小規模校にもメリットがある、児童に目が届きやすい、丁寧な対応、特別支援学級に入る際の手続きのご意見だが、目が届きやすいという点は確かにそうだろうと思うが、本市としては、適正な学校の規模として12～24学級としており、そういった規模であっても児童に目が届くよう、学校運営のあり方を考えてまいりたいと考えている。

教育委員会事務局：特別支援教育について、ご心配いただいている点であろうと思うが、小学校の統廃合に伴って児童が新しい学校に通学することになっても、引き続き安心して学校生活を送れるような体制を整えていくのが大前提であるので、小規模校であっても大規模校であっても、特別支援教育における学校体制を整え、特別支援学級の児童への適切な支援、指導に努める。各学校では、文部科学省が定める学習指導要領に基づいて、児童の個別のニーズに合わせた支援が行えるようにしている。今後も引き続き、各校で、どのような支援が必要か、個別に相談していただきながら、対応していくことになるので、どの

小学校に行かれることになっても、それは同じである。

小学校の統合に伴って、その時点で支援学級に通学されている児童の担任が変わることによる影響も懸念されるので、そういったことのないよう、統合前から両校の教員間で連携を図って、必要に応じて特別支援教育サポーター等の加配を行うなど、支援に影響がないように取り組んでまいるのでご理解いただきたい。

・私自身、来年度今福小学校に入学予定の保護者であるが、小規模校の統廃合の前提条件は、全ての学年において単学級である、今後ともすべての学年において単学級であることが見込まれる学校に該当することと認識しているが、この見込みが仮にはずれて、児童数が増え複数学級になるなどした場合、この統廃合の話はなくなるという認識でよいのか。行政により見込まれている児童数の推移なので大きな差異はないと思うが。資料の推移であれば統廃合されるということでのよいのか。



教育委員会事務局：我々が規則上の区分のもとになる児童数の推計を算出しているが、児童数が増える見込みなど、規則で定めている区分が変わる状況になれば、どうしていくかは改めて検討していくことになるかと思う。ちなみに、推計については、各学校区における過去 10 年間の増減率を算出し、現在の校区内の 0 歳児から就学前までの児童数の増減率を乗じて、翌年度以降どのように推移していくのかを算出している。また、大規模マンションの開発が市内の地域によってはあるので、開発される場合においては、70 戸数以上で 2DK の間取り以上のファミリー向けのマンションであるならば、開発事業者から行政に報告を求めており、そういった情報も加味しながら、全市的に推計に反映しているので、見込みではあるが、可能な限り精緻なものになるよう努めている。

・学校の跡地利用について、地域の意見を聞いて活用を検討されるとのことで、売却されるのではないかと心配に思っていたのでそれは良かったと思う。単学級ということで子どもたちが少ないから統合ということだが、そのような学校は地方にはたくさんあるし、目の行き届いた教育ができるのであれば、単学級でも良いのかなとは思っている。気になるのは通学路である。地図を見たが、橋が一つしかない。想定外の災害が発生し橋が流されてしまったらどうなるのかと不安に思った。今福小学校と放出小学校は同じ放出中学校区だからとの理由の説明があったが、実際には学校選択制で鯉江や他の小学校に通学している児童もいるのだから、子どもたちの安全を踏まえて再編を考えていただきたい。地域の保護者は不安に感じているので、しっかりと意見を聞いていただいて、納得がいくようにしてもらいたい。

・令和 4 年の保護者説明会の際には、令和 9 年度には今福小学校は統合されるという話があって、それを聞いて学校選択制で他の学校を選ばれた保護者も多いと思う。子どもが少なくなるのではなくて、学校選択制により鯉江東小学校に通学することになった児童はどれくらいいるのか。今福地域から多くの保護者が鯉江東小学校を希望した場合、受入れについて学級数などはどこが決めるのか。資料には放出小学校に統合された後、11 年度に 21 学級との記載があるが、1 学級何人を予定されているのか。

・統合の際、今福小学校から途中で放出小学校に移るだけで児童たちは精神的にダメージが大きいと思うが、そのフォローとして、その時点で今福小学校の教員を放出小学校にそのまま異動させるなど、児童たちのメンタルのケアはどうするのか。



区：学校選択制で今福地域のうち一部の地域は鯉江東小学校に近いことにより希望される保護者がいる関係で、鯉江東小学校の学級数はどこが主体で決めるのかといった質問があったが、学校と区役所、教育委員会で協議の場をもっている。学校選択制による希望人数の増のみの理由でもって校舎等の工事は実施しないルールであるので、その時点での教室数など物理的な条件で学校選択制の受入数は決まると考えている。

新たな小学校が 11 年度に 21 学級とあるが 1 学級何人なのかとの質問については、現在の小学校は全て

の学年で35人学級となっているので、最大で1学級が35人の想定である。学年の人数によって、1学級毎の人数は変わることになるが、現在の令和11年度児童数の見込みである639人を各学年35で除して、学級数を21とお示ししている。

学校選択制で今福地域から鯉江東小学校にどれくらい選択したのかといった点であるが、こういった数の公表等を行っていない。学校選択制に伴う学校案内を対象となる各世帯にお渡ししており、10月までに区域の小学校か他の学校を選択するのか調査票を提出いただくのだが、その回答結果については公表しているものの、実際にどこの区域の何人の児童がどこの小学校に行ったのかといった最終結果については公表していない。

教育委員会事務局：教員の配置についてであるが、統合が令和11年度ということなので、その時点でどうなっているかを具体的にお示しすることは難しいが、毎年教員の人事異動があり、今福小学校の児童が統合時に新たな小学校に通学することとなり、今福小学校で今まで教えてもらっていた教員が誰もいないといった状況になると、教育環境的にも難しい状況になると理解できるので、その年の人事異動の際に両学校長の意見を聴き、児童の教育環境のために一番適した人事異動を検討してまいりたい。これまで統合した学校においても、転出元の学校の教員が一人も転出先の学校に行かなかった例はないので、その点は安心いただきたい。ただ、全ての教員が異動できるかということ、教員の定数の問題もあり物理的に難しい面があるので、ご理解いただきたい。

・この地域に生まれ育って、親子四代にわたって今福小学校を卒業してきた。放出小学校はあくまでも分校であって、川の向こうの工場が廃業しマンションが建設され、当時の児童が今福小学校に収容できないということで建設されたということで放出小学校は分家と思っている。今福小学校が本家である。小学生に重いランドセルを背負って2キロメートル歩かせるのであれば、以前であれば川の向こうから今福小学校に通ってきていた。放出小学校に行くよりも今福小学校に行く方が近いのであれば、本家に行くのが当たり前ではないか。統廃合で本家をなくしてなぜ分家を残すのか、理解できない。まだ決定ではないのであれば、今福小学校を残していただきたい。私は小学校の職員で30年以上、多くの学校で勤務している。マンモス校にも少人数の学校にも勤務した。私の意見だが、やはり少人数校の方がアットホームで1年生から6年生の生徒の名前を全ての教員が知っている。核家族で共働きの家庭が多い中、学校は学習の場であるけれども、家族的に学校の職員も子どもたちを暖かく見守っていきたいと思っている。決定でなかったら、本家の今福小学校を残してもらいたい。

↓

区長：今福小学校と放出小学校を再編するという案を検討した際に、いただいた経緯については我々も認識しており、特に今福地域のみなさんの今福小学校に対する愛着が強いということも理解している。一方、統廃合という答えを出さなければならず、結果として、現状の案は放出小学校の校地を活用することとしている。それは、現時点での施設の状況であったり、グラウンドの広さであったり、物理的な状況も踏まえてのことである。いただいたような、本家と分家というお気持ち、感情的な面については、個人的にはよく分かる、伝統がある学校の方を残すべきであろう、今福小学校と放出小学校は分かれて50年ということで、当然今福小学校はそれよりはるか以前から歴史を持っているのだからと。気持ちはよく分かるのだが、先ほどから申しあげているとおり、子どもの教育環境を整えていきたいということに関しては、私どもの立場としては全体的なことも考えていかなければならない。実際に今福小学校か放出小学校かの二者択一となり心苦しい部分はあるが、結果的に放出小学校の校地活用という選択をしている。ただ、今回お示ししている適正配置検討会議、この会議において新しい小学校の形を決めていくことにしているが、今福小学校が完全に放出小学校に吸収されるといったイメージは我々は考えていない。例えば、校章であるとか、学校の名称であるとか、今福小学校と放出小学校が一体となったということを残すような形で、言い換えれば今福地域のみなさんの愛着に配慮した形で新しい小学校の形を作っていきたい。通学路に関してや、少人数学級、少ないからこそその利点があるのではないかなど、さまざまなご意見をいただいたところだが、それらを含めて我々が決定した案をそのまま押し付けるといった進め方はしないので、跡地の活用や校章、校歌、学校名や通学路、この地域から通う

子どもにとって危険ではないかなどの課題については行政、区役所や教育委員会であれ、そこだけでは見えない地域のみなさんの視点もあるかと思われ、むしろそちらの方が重要だと私自身は感じているので、今後も対話させていただきたい。時代の流れという言葉で申しあげるのも心苦しいが、今の時代、そして未来の子どもたちのための新しい小学校を考えたときにどうあるべきかというところで一緒に考えさせていただきたい。ご理解いただきたいとしか申しあげられないが、地域のみなさんの声を聞きながら、新しい学校のあり方、今福地域の子どもたちの教育環境のあり方を考えていきたい。